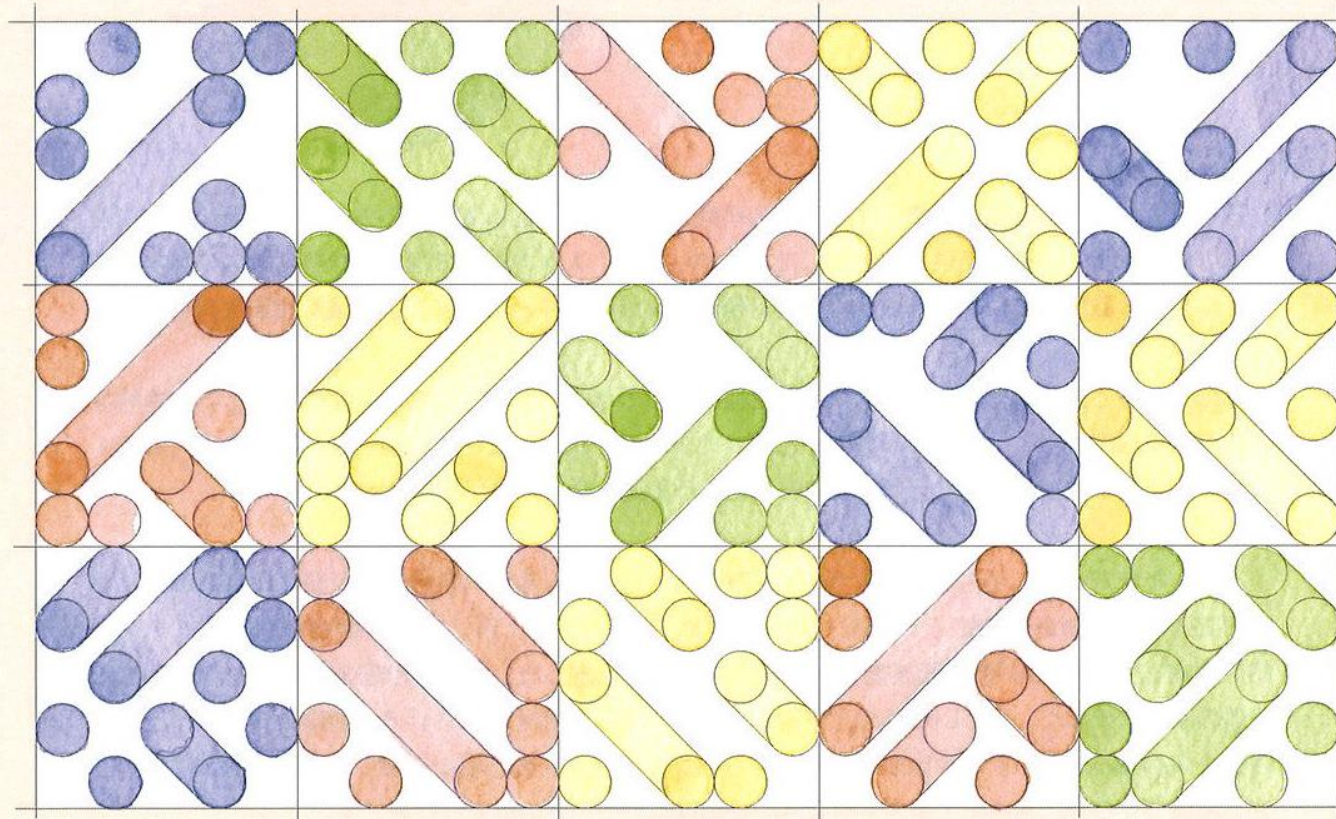


平成 26 年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
事業報告書



男女共同参画推進センター センター長

藤岡 伸子



工学は人間の幸福な生活に奉仕する技術の研究・開発を使命として、私たちの暮らしを便利で快適なものにし、多くの夢を実現してきました。しかし近年、人々の求める理想的な暮らしの姿がずいぶん変わり、数値化しにくい多種多様な質的価値が幸せの要件としてますます強く意識されるようになってきました。

ものづくりで人に奉仕する工学も新たな価値に寄り添うように、より繊細で柔軟なそして感性的なものへと自ら変わっていく必要があります、これまで少数派であった女性の感性や視点を取り込んで行くことが工学の未来を切り開く上で重要であるという認識が急速に広がっています。

こうした状況の中、名古屋工業大学は文部科学省の平成 26 年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択され、昨年 12 月 1 日、「男女共同参画推進室」を発展的に解消して、「男女共同参画推進センター」を発足させました。工学系は理系の中でも最も女性研究者の割合が少なく、新しい時代の工学を担うべき女性研究者を増加させその活躍を支援することが今強く求められています。少数派で孤立しがちな女性研究者が居心地よく感じ安心して研究に邁進できる環境づくりが、名古屋工業大学男女共同参画推進センターの重要な仕事です。

本センターでは現在

- ①【女性研究者支援】
- ②【問題発見・解決】
- ③【女性研究者コミュニティ形成支援】
- ④【企画広報・裾野拡大】

の4つをミッションとして活動をおこなっています。

【女性研究者支援】の一環としては、女性研究者を支援する研究支援員として、ライフイベント等で社会の第一線から退いている本学 OG を起用し、彼女たちが本学で培った専門性を活かした高度な支援を実現できる仕組みとして「OG 人材バンク i- ネット」を発足させました。これは、女性研究者支援であると同時に、本学 OG に再チャレンジの機会を提供する試みでもあります。今後は広く名古屋工業大学 OG の情報を蓄積し、第一線で活躍する人も、ライフイベントとの両立に困難を感じている人も、それぞれにメリットが感じられるような女性技術者・研究者のコミュニティ構築につなげたいと考えています。この他、研究業績向上のため、英語論文校正援助・英語プレゼンテーション指導などの直接的支援も実施しています。また本センターには、「ワークライフバランス相談室」を新たに設置し、あらゆる悩みに対する相談・問題解決を担うワンストップ窓口としました。この相談室には、交流サロン（i-cafe）も併設し、各部署に分散して孤立しがちな女性研究者同士が気軽に交流できる快適な場と機会を設け【女性研究者コミュニティ形成支援】を推進します。これは、彼女たち自身が主体的に【問題発見・解決】に取り組むきっかけともなるでしょう。

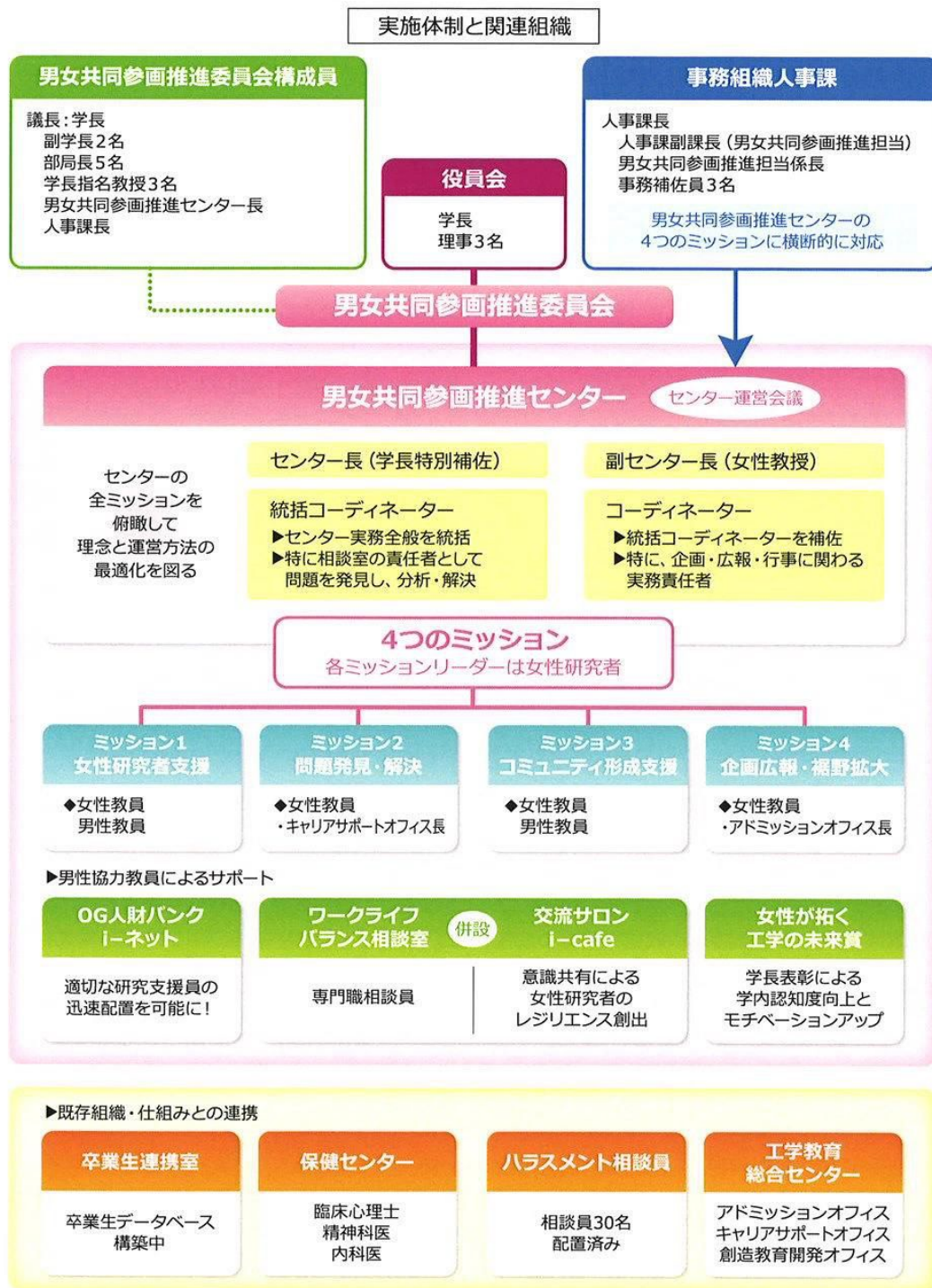
【企画広報・裾野拡大】としては、従来の施策を加速させ、リーフレット、ニューズレターの発行、ウェブサイトでの女性研究者支援策の内外へのアピール等、積極的な広報活動を展開しています。また、優れた研究業績を有する若手女性研究者を対象とした「女性が拓く工学の未来賞」を創設し、研究活動の活性化を図ります。この賞を通じて本学女性研究者の活躍を広く内外に知っていただくことで、女性研究者の存在感が高まると共に、女子学生が将来研究者としての進路を考えるきっかけにもなると考えています。

またポジティブアクションの積極的発動により、女性限定公募の実施、新規常勤教員採用時の女性比率 20%、テニュアトラック教員採用時の女性比率 25%などの目標を掲げ、その確実な達成を目指します。

名古屋工業大学男女共同参画推進センターはまだ発足したばかりですが、今後、包括的な支援を積極果敢に推し進め、女性研究者がその能力を遺憾なく発揮できるような研究環境作りに邁進してまいります。

平成 27 年 3 月 藤岡伸子

組織図



名古屋工業大学の女性の状況について

◆名古屋工業大学の女性の状況 (平成26年5月現在)

女性研究者在籍状況		教育類別在籍状況		女子学生 在籍比率		
教授	8	生命・物質	0	全学科	学部	14.3%
准教授	8	環境材料	1		博士前期	9.6%
助教	6	機械	1		博士後期	12.1%
特任教員	3	電気電子	1	※女子学生の在籍比率が高い学科		
特任研究員	7	情報	1	生命・物質工学科	29.0%	
合計	32(22)	建築・デザイン	4	建築・デザイン工学科	30.6%	
		都市社会	3			
		計	11			

※ () 内は特任を除いた数

◆名古屋工業大学の現状と目標

- (1) 女性研究者在職比率向上8.0%(平成25年5月現在)
→10.3%(平成28年度末)
- ・女性限定公募の実施
 - ・新規常勤教員採用の女性比率 20%確保
 - ・デニユアトラック教員採用の女性比率 25%以上
 - ・事業期間内に2名程度の女性特任教員を企業より招聘

◆事業終了後

- (1) 事業終了後
- ・平成29年度末の女性研究者在職比率 10.7%
 - 事業開始から4年以内に9名の女性研究者を採用(85%以上を理工系)
- (2) 平成36年に女性研究者在職比率15%を達成



◆活動報告

- 平成26年12月 1日 男女共同参画推進室から男女共同参画推進センターへ
- 12月21日 内閣府、男女共同参画推進連携会議、日本女性科学者の会主催イベント「あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～」を共催（愛知大学、岐阜薬科大学、岐阜大学、名古屋工業大学）
- 12月22日 男女共同参画推進センター開所式
- 平成27年 1月20日 「女性技術者との交流会」～女性技術者と座談会形式で話を聞こう!～を開催主催（SAYA）
- 2月10日 意識啓発キャラバン（学長による男女共同参画推進に関する訪問説明会）実施
- 2月24日 キックオフシンポジウム「ダイバーシティ・マネジメントによるキャンパスの活力創出をめざして」を開催
- 3月下旬 学長特別褒賞「女性が拓く工学の未来賞」受賞対象者の決定・表彰
- 3月27日 英語論文・プレゼンテーションセミナーの実施

◆メディアでの紹介

- 平成26年11月28日 『中日新聞』に本事業の取組紹介記事「女性研究者OGが支援-名古屋工大人材バンク創設へ」が掲載
- 12月24日 『中部経済新聞』に本事業の取組を紹介した記事「女性研究者の支援に力-人材バンクでOGを活用」が掲載
- 12月26日 『月刊なごや』（388号）（北白河書房、文化情報誌）に本事業の取組を紹介した記事「女性が拓く工学の未来へ」が掲載
- 平成27年 1月 6日 『中日新聞』に「リケジョ研究者育成を～専門知識あるOG活躍～」が掲載
- 1月13日 NHK名古屋放送局がOG研究支援員第1号を放映

◆掲載例

名古屋工大 人材バンク創設へ
女性研究者を支援するが、対象をOGに限定し、研究者研究活動支援のため、名古屋市内に創設する。非営利で運営する。十二月初旬、男女共同参画推進センターを開設する。OGは、博士号など取得し、OG人材バンクに加盟する。OG人材バンクは、門外漢をもちながら、OG人材バンクの専門性を活かして、出展などで「経験豊富なOG人材バンク」を創設する。出展などで「経験豊富なOG人材バンク」を創設する。出展などで「経験豊富なOG人材バンク」を創設する。

平成26年11月28日 中日新聞朝刊

女性研究者OGが支援



平成27年1月19日 文教速報

名古屋工業大学は女性研究者の支援体制を強化している。文部科学省が推進する「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に選定されたことを受け12月、学内に「男女共同参画推進センター」を新設。女性研究者の研究力向上や研究環境改善などへの取組を始めた。同センターのセンター長で学長特別褒賞、大学院教授の藤岡伸子氏に、支援の概要や現状を聞いた。

女性研究者の支援に力



「人財バンク」でOGを活用
名古屋工業大学は女性研究者の支援体制を強化している。文部科学省が推進する「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に選定されたことを受け12月、学内に「男女共同参画推進センター」を新設。女性研究者の研究力向上や研究環境改善などへの取組を始めた。同センターのセンター長で学長特別褒賞、大学院教授の藤岡伸子氏に、支援の概要や現状を聞いた。

平成26年12月24日 中部経済新聞

リケジョ！大学生

学内保育所や奨学金制度
女性研究者の支援に力
名古屋工業大学は女性研究者の支援体制を強化している。文部科学省が推進する「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に選定されたことを受け12月、学内に「男女共同参画推進センター」を新設。女性研究者の研究力向上や研究環境改善などへの取組を始めた。同センターのセンター長で学長特別褒賞、大学院教授の藤岡伸子氏に、支援の概要や現状を聞いた。

大学と企業が支援

専門知識あるOG活躍
名古屋工業大学は女性研究者の支援体制を強化している。文部科学省が推進する「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に選定されたことを受け12月、学内に「男女共同参画推進センター」を新設。女性研究者の研究力向上や研究環境改善などへの取組を始めた。同センターのセンター長で学長特別褒賞、大学院教授の藤岡伸子氏に、支援の概要や現状を聞いた。

平成27年1月6日 中日新聞朝刊

① 女性研究者支援

研究支援員制度

本学では、女性研究者支援の一環として、「研究支援員制度」があります。研究支援員制度は、出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために十分な研究時間が確保できない教員などに配置することで生活と研究業務の両立が図れるように支援していくものです。

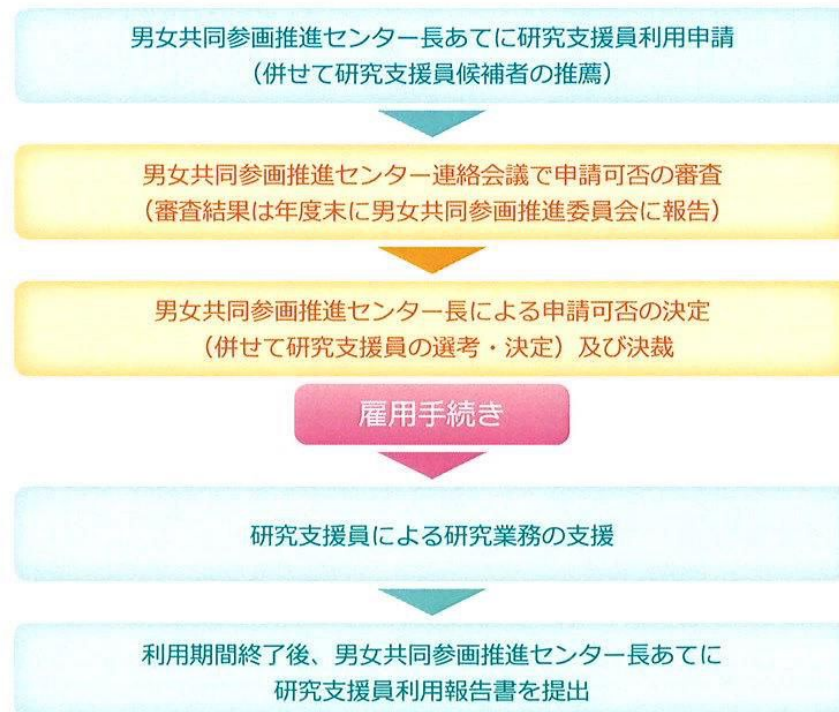
◇利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす人になります。

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む。）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要支援者がいる者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

研究支援員の身分は、パートタイマーとし、研究支援員として雇用できるものは、本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生とします。「学生研究支援員」の勤務時間は、1週間あたり19時間を上限とします。「卒業生研究支援員」の勤務時間は、1週間あたり30時間以内とします。

◇研究支援員雇用の流れ



◇制度を利用して

名古屋工業大学 助教
武藤 敦子

二人の育児と教育・研究活動の両立を目指す私にとって、どうしても足りないのは「時間」です。限られた時間の中で教育はもちろん研究の成果を出していくためには、実験データの処理や文献調査など手伝ってもらえたらと思う作業が多くあります。研究支援員制度を利用することで、それらの

作業を効率的に進めることができ、研究のスピードアップにつながっています。支援員の方が本学のOGであることも、頼みやすさや円滑に仕事を進める上で大いに役立っています。

◇研究支援員の声

名古屋工業大学出身
坂田 美和

卒業後、専門とは少し異なる分野でプログラミングの仕事をしていました。出産後は仕事を諦めていた部分がありましたが、育児が一段落すると、やはりまた仕事をしたいという気持ちが強くなり、探し始めたところに研究支援員のお話をいただきました。しばらく研究の場から離れていたことで、戸惑いはありましたが、一度社会に出たことで考えや捉え方に変化が生じたのか、学生時代とは違った興味や意欲を感じています。この機会に感謝し、自らのスキルアップに努め、先生の研究に貢献していきたいと考えています。



OG人財バンク i-ネット

名古屋工業大学のOGたちの中には、高い専門知識を得て就職したものの、出産と育児のハードルを越えられずにキャリアを断念した方たちが少なからず存在します。そのような何らかの理由で第一線を退かれている方たちを、ライフイベントに直面して支援を求めている本学女性研究者の研究補助を行う研究支援員として雇用する仕組みです。

バンクを経ても母校で研究支援員として最新の知識に触れることを通じ、再チャレンジへの意欲ときっかけをつかむことも期待できます。

◇利用方法

女性卒業生の皆様を対象に、登録窓口を設けご登録をお願いしております。

<http://www.nitech.ac.jp/gender/>

◇登録手順

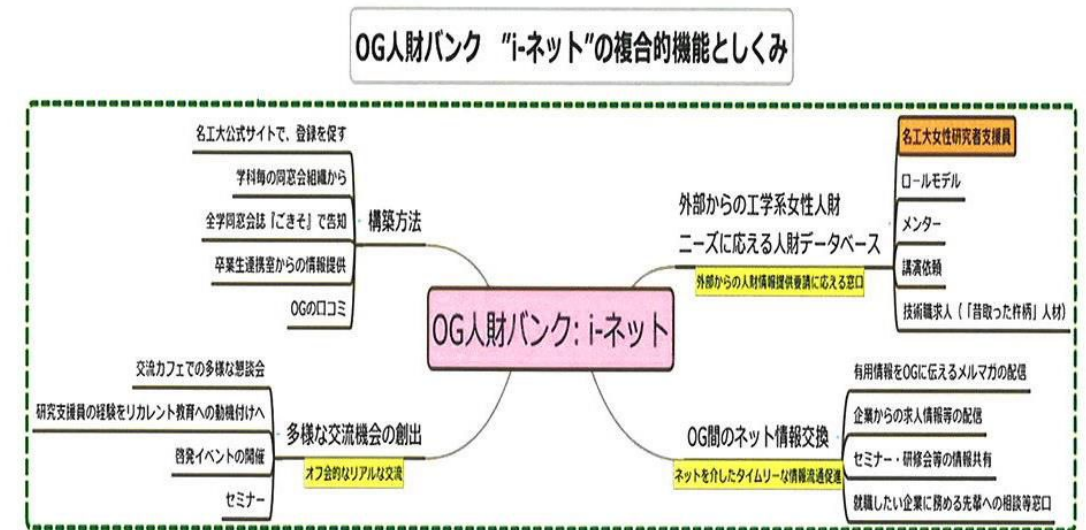
ポータルにログイン後、統一データベース>進路情報の表示・編集>活動支援>OG人財バンク登録

◇活用事例

OG研究支援員としての雇用だけでなく、第一線でご活躍の方々には、男女共同参画に関する講演等をお願いするほか、ロールモデルとして広報誌で紹介するなど人財情報源として自治体やNPO、企業との橋渡しに活用したいと考えています。

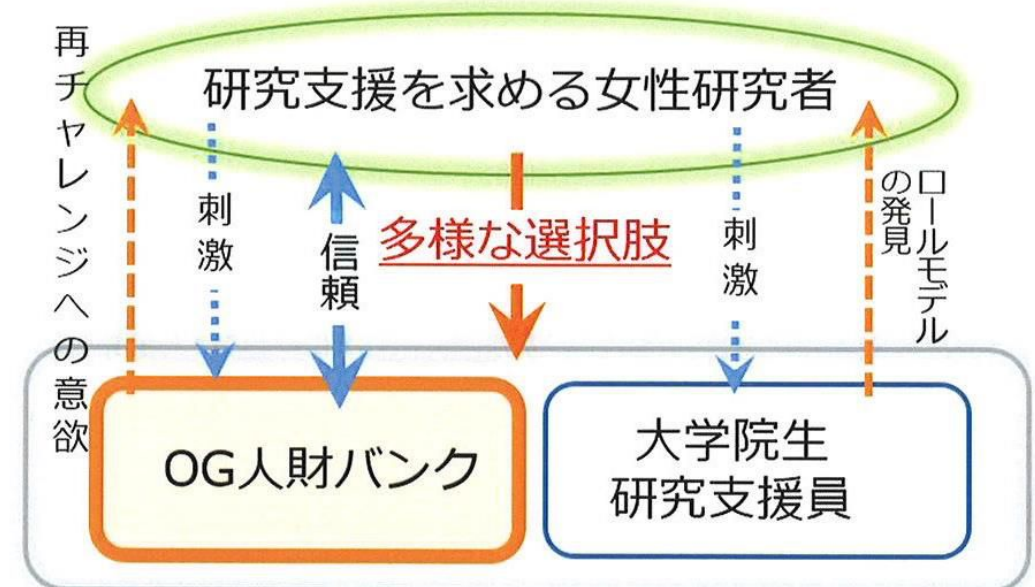
その他、登録者にはセミナーや講演会の開催等、キャリア支援に有用な情報を随時届けると共に、登録されたOGが情報を共有し、ライフステージやニーズに応じた活躍の場を広げる情報共有プラットフォームとして拡充していきたいと考えます。

◇OG人財バンク i-ネット



i-ネット:iは integrationのi / innovationのi / 「出会い」の「会い」

●「OG人財バンク」の構築による支援員制度の拡充



◆育児支援

育児支援として、本学から徒歩5分程度の距離にある民間保育施設「千種シッターサービス」との会員契約締結により、シッター派遣サービスおよび、保育ルームの利用負担を軽減しました。利用の際は、会員価格で利用可能です。

② 問題発見・解決

◆相談

ワークライフバランス、キャリア相談は、ワンストップサービスとして、すべての研究者を対象にした相談窓口になります。専門の相談員を配置し、あらゆる内容の相談に柔軟に対応していきます。相談者に対して、真摯に向き合いながら、ともに課題の解決に向けてじっくり取り組んでいきます。また、必要に応じて、連携する「保健センター」、「ハラスメント相談員」などとも協力して迅速な問題解決を図っていきます。

③ 女性研究者コミュニティ形成支援

◆i-cafe

i-cafeは、女性研究者だけでなく、本学女子学生をも含めた交流サロンになります。本学の女性研究者が、各部署に分散して孤立した状況に陥りがちであることから、このような特別な空間を設けることで、女性研究者同士の交流や相互の相談が可能となるだけでなく、博士後期課程学生にも開放することにより、博士後期課程学生と女性研究者との交流が大いに期待されます。

◆彩綾～SAYA～の活動

女子学生が自らのキャリアパスを自ら考える学生サークル(彩綾～SAYA～)が平成26年に旗揚げされました。学科・学年をこえた繋がりの中かで名古屋工業大学女子学生向けの情報誌や大規模な女子会、OGの先輩方との交流会などを計画し、学校生活から就職活動、卒業まで輝いていこうと活動しています。今年度は、第1回目の企画として、平成27年1月20日(火曜日)に「女性技術者との交流会」～女性技術者と座談会形式で話を聞こう!～を開催しました(参加企業:アイシン精機・トヨタ自動車・トヨタホーム・日本ガイシ・日本メナード化粧品)。



④ 企画広報・裾野拡大

◆キックオフシンポジウムの開催

平成27年2月24日(火曜日)、名古屋工業大学23号館1階2311大講義室にて、平成26年度女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウムを開催いたしました。学内教職員を始め、一般の方、約100人の方々にご参加いただきました。

開会の挨拶として、本学の鶴飼裕之学長から、文部科学省の女性研究者研究活動支援事業が採択されたことの喜びと責任、そして、「女性活用」というよりも「女性とともに活躍」していこうという意欲的な言葉が語られました。続いて、文部科学省科学技術・学術政策局 人材政策課長片岡洋氏による「研究環境のダイバーシティ実現に向けて」と題した基調講演がありました。男女共同参画推進についての概要をお聞きした後、女性の活躍促進に向けた動き、関連するデータ、最後に文部科学省の取組が説明されました。特に女性研究者研究活動支援事業の概要、好事例の紹介は、事業を採択された本学にとって有益な情報となりました。



続けて休憩をはさみ、当センターの統括コーディネーターの乙部から本事業の説明を行いました。

最後に、先に講演された片岡氏をコメンテーターに迎え、パネルディスカッションを行いました。本センター長の藤岡伸子教授がコーディネーターを務め、パネリストには、豊橋技術科学大学大学院教授・学長補佐中野裕美氏、本学大学院教授浜田恵美子、同じく本学大学院教授秀島栄三が登壇し、それぞれが話題を提供してディスカッションを行いました。中野教授からは、女性参画の必要性和活躍の期待、浜田教授からは工学部に女性が少ない要因、秀島教授からは、社会的な公平性というテーマを出していただきました。その後、パネリストの方々には、議論を深めていただき、結論として、キャリアパスが明確に見えることで、工学部に進学する女子学生が増え、さらに大学院進学者も増えることで初めて一定の女性数が確保できるという道筋が示されました。またこういった状況になれば、性別よりも個人としてみるのが可能だと結論づけました。

最後に、名古屋工業大学理事木下隆利の挨拶で閉会いたしました。

◆意識啓発キャラバンの実施

平成27年2月10日（火曜日）に意識啓発キャラバンとして物質工学専攻会議にて「学長による男女共同参画推進に関する訪問説明会」を、女子学生比率の低い、物質工学専攻と未来材料工学専攻に対して実施いたしました。学長の鶴飼裕之と本センター長 藤岡伸子から、本学の現状と女性研究者積極的採用に向けた取組などについて説明いたしました。



◆図書、パッケージサービス

男女共同参画の推進のために、平成25年3月から、独立行政法人国立女性教育会館の図書パッケージ貸出しサービスの利用を開始いたしました。本学の附属図書館の一角に、男女共同参画関係書籍のコーナーを設け、学生および教職員を対象に、閲覧および貸し出しを行っています。学内の方はどなたでも利用できます。また、毎年6月16日～26日には内閣府の男女共同参画週間と連動して、「名工大の男女共同参画週間in附属図書館」と銘打って書籍の閲覧、貸し出しを呼びかけています。



◆ホームページ

男女共同参画推進室から男女共同参画推進センターに変わったことを契機に、ホームページをリニューアルいたしました。センターからの多種多様な情報発信を1箇所からスムーズに行えるように、つねに最新の情報への更新など、閲覧者にとって、利用しやすいような環境整備を心がけています。

国立大学法人名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

サイトマップ お問い合わせ 文字サイズ 小 中 大 各部門検索

名工大の男女共同参画 女性研究者支援 OG人材バンク ライフイベント支援

情報発信 学生支援 活動報告 i-cafe ワークライフバランス相談と交流 リンク集

Topics 一覧を見る

イベント 2015年02月13日 【開催日：2月24日】「平成26年度女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウム」を開催します。

お知らせ 2015年02月02日 名古屋工業大学男女共同参画推進センターのウェブサイトを更新しました。

お知らせ 2014年12月26日 名古屋工業大学男女共同参画推進センターが開所式を行いました。

お知らせ情報 一覧を見る

お知らせ イベント 全一覧

2015年02月13日 イベント 【開催日：2月24日】「平成26年度女性研究者研究活動支援事業キックオフシンポジウム」を開催します。

2015年02月02日 お知らせ 名古屋工業大学男女共同参画推進センターのウェブサイトを更新しました。

2014年12月26日 お知らせ 名古屋工業大学男女共同参画推進センターが開所式を行いました。

2014年12月01日 お知らせ 男女共同参画推進室は、男女共同参画推進センターに変わりました。

2014年11月28日 お知らせ 第3回オープンキャンパス(女子学生のためのテクノフェスタ3)を開催しました！

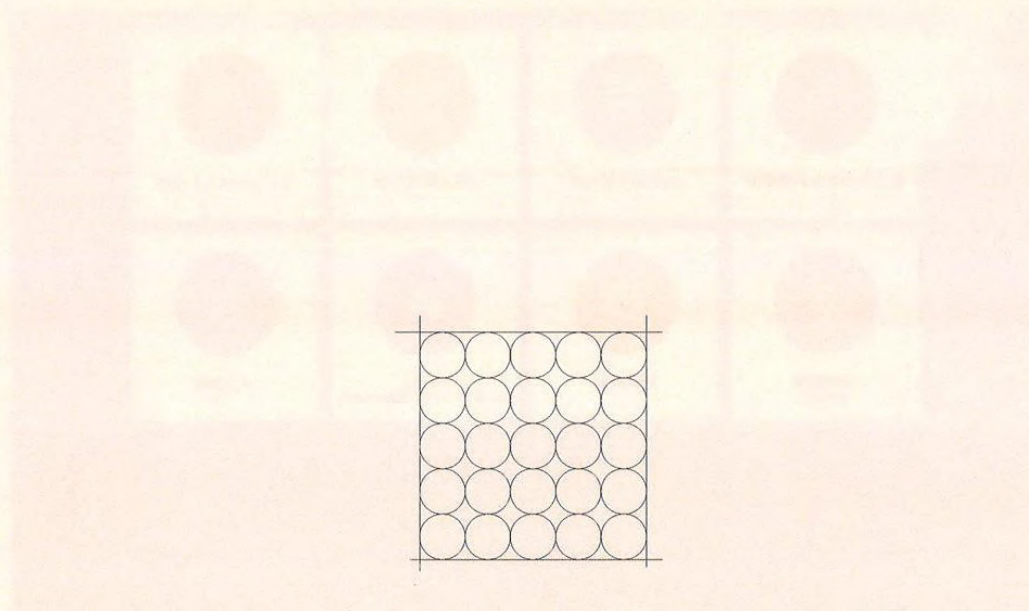
2014年11月21日 お知らせ 2014年度MOT特別セミナーが開催されました。

2014年11月18日 お知らせ あなたが創る未来に向けて～理系の資格と仕事～を開催します。12月21日（日）

2014年10月31日 お知らせ 平成26年度JST女性研究者研究活動支援事業（一般型）に選定されました。

国立大学法人名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

© Nagoya Institute of Technology. All rights reserved.



国立大学法人 名古屋工業大学
男女共同参画推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL & FAX 052-735-5121

E-mail : danjokyodo@adm.nitech.jp

URL : <http://www.nitech.ac.jp/gender/>